

複素数平面上で、複素数  $z$  を用いて、2つの円  $O_1$  と  $O_2$  を、次の式で定義する。

$$O_1 : |z + 5| = 1 + 2\sqrt{5}$$

$$O_2 : |z - 5| = 1$$

この2つの円に外接する円  $O_3$  の中心を点  $P(\alpha)$  とし、円  $O_1$  と円  $O_3$  の接点を  $Q(\beta)$  とおくと、次の問に答えよ。

- (1) 複素数  $\alpha$  の実部が正であることを示せ。
- (2) 2つの実数  $x, y$  と虚数単位  $i$  を用いて複素数  $\alpha$  を  $\alpha = x + yi$  と表すとき、 $x$  を  $y$  を用いて表せ。
- (3)  $t = \tan(\arg(\alpha))$  としたとき、 $t$  のとりうる値の範囲を求めよ。ただし、 $\arg(\alpha)$  は複素数  $\alpha$  の偏角とする。
- (4) 複素数  $\alpha$  を  $t$  を用いて表せ。
- (5)  $\arg(\alpha) = \frac{\pi}{3}$  のとき、複素数  $\beta$  の値を求めよ。

(22 山形大 医 6)

【答】

(1) 略

$$(2) x = \sqrt{5 + \frac{y^2}{4}}$$

$$(3) -2 < t < 2$$

$$(4) \alpha = \frac{2\sqrt{5}}{\sqrt{4-t^2}}(1+ti)$$

$$(5) \beta = -3 + \sqrt{5} + 2\sqrt{3}i$$

【解答】

$$O_1 : |z + 5| = 1 + 2\sqrt{5}$$

$$O_2 : |z - 5| = 1$$

- (1) 中心が  $P(\alpha)$  の円  $O_3$  の半径を  $r$  とすると、円  $O_3$  は円  $O_1$  と円  $O_2$  に外接するから、2円に対して

$$(\text{中心間の距離}) = (\text{半径の和})$$

すなわち

$$\begin{cases} |\alpha + 5| = r + (1 + 2\sqrt{5}) \\ |\alpha - 5| = r + 1 \end{cases}$$

が成り立つ。辺々の差をとると

$$|\alpha + 5| - |\alpha - 5| = 2\sqrt{5} \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$\therefore |\alpha + 5| > |\alpha - 5|$$

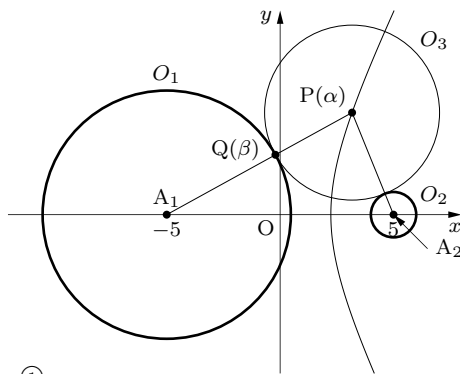
円  $O_1, O_2$  の中心  $-5, 5$  をそれぞれ  $A_1, A_2$  とおくと、 $\alpha$  は線分  $A_1A_2$  の垂直二等分線 (虚軸) の右側にあるから、 $\alpha$  の実部は正である。  $\cdots \cdots$  (証明終わり)

- $\alpha = x + yi$  ( $x, y$  は実数) とおくと

$$|\alpha + 5|^2 > |\alpha - 5|^2 \iff (x+5)^2 + y^2 > (x-5)^2 + y^2$$

$$\therefore x > 0$$

である。



(2) ①より  $\alpha$  は双曲線を描く.  $xy$  平面において, この双曲線は焦点の座標が  $(\pm 5, 0)$ , 頂点間の距離が  $\sqrt{5}$  であるから, 方程式は

$$\frac{x^2}{(\sqrt{5})^2} - \frac{y^2}{5^2 - (\sqrt{5})^2} = 1$$

$$\therefore \frac{x^2}{5} - \frac{y^2}{20} = 1 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

である. (1)より  $x > 0$  だから

$$x = \sqrt{5 + \frac{y^2}{4}} \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.

(3) 双曲線②の漸近線は  $y = \pm 2x$  だから,  $t = \tan(\arg(\alpha))$  のとりうる値の範囲は

$$-2 < t < 2 \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.

(4) 直線 OP の方程式は

$$y = x \tan(\arg(\alpha)) \quad \therefore y = tx$$

である.  $y = tx$  と双曲線②の交点では

$$\frac{x^2}{5} - \frac{t^2 x^2}{20} = 1$$

$$\frac{(4 - t^2)x^2}{20} = 1$$

$4 - t^2 > 0$ ,  $x > 0$  に注意すると

$$x = \frac{2\sqrt{5}}{\sqrt{4 - t^2}}, \quad y = \frac{2\sqrt{5}t}{\sqrt{4 - t^2}}$$

よって,  $\alpha$  は  $t$  を用いて

$$\alpha = \frac{2\sqrt{5}}{\sqrt{4 - t^2}}(1 + ti) \quad \dots\dots(\text{答})$$

と表される.

(5)  $\arg(\alpha) = \frac{\pi}{3}$  のとき,  $t = \sqrt{3}$  だから, (4)より

$$\alpha = 2\sqrt{5}(1 + \sqrt{3}i)$$

このとき

$$\begin{aligned} A_1P &= |\alpha - (-5)| = |2\sqrt{5}(1 + \sqrt{3}i) + 5| \\ &= \sqrt{5}|2 + \sqrt{5} + 2\sqrt{3}i| \\ &= \sqrt{5}\sqrt{(2 + \sqrt{5})^2 + (2\sqrt{3})^2} \\ &= \sqrt{5}\sqrt{21 + 4\sqrt{5}} \\ &= \sqrt{5}(\sqrt{20} + 1) \\ &= \sqrt{5}(1 + 2\sqrt{5}) \end{aligned}$$

である. 点 Q( $\beta$ ) は  $\overrightarrow{OQ} = \overrightarrow{OA_1} + \frac{A_1Q}{A_1P} \overrightarrow{A_1P}$  であるから

$$\begin{aligned} \beta &= -5 + \frac{1 + 2\sqrt{5}}{\sqrt{5}(1 + 2\sqrt{5})}(\alpha + 5) \\ &= -5 + \frac{1}{\sqrt{5}} \cdot \sqrt{5}(2 + \sqrt{5} + 2\sqrt{3}i) \\ &= -3 + \sqrt{5} + 2\sqrt{3}i \quad \dots\dots(\text{答}) \end{aligned}$$

である.